

課題名：世界農業遺産を契機とした奥能登の特徴を活かした水稻の生産振興

| 背景と問題点 | 課題 | 普及活動の内容（H25～） | 活動の成果 | 今後の課題 |
|--------|----|---------------|-------|-------|
|--------|----|---------------|-------|-------|

**【背景】**

- 平成23年に「能登の里山里海」の世界農業遺産認定 → 生産者やJAの能登産米のブランド化に向けた機運が高まる。
- 〈世界農業遺産とは〉  
その土地の環境を生かした伝統的な農業・農法、生物多様性が守られた土地利用、農村文化や農村景観が一体となり維持保全が図られている世界的に重要な地域



〔能登産米のブランド化イメージ〕

- H24年から、奥能登4JAが先行して能登棚田米の生産開始
  - 生産者アンケートから抽出した要望
    - ・特別栽培により減収した生産者への技術的支援が必要
    - ・取組の成果（品質、食味、販売状況）が実感できない
  - 高齢化が進み、農業者だけでは棚田保全が難しい。
- H25年産から、能登の全JAが連携して、消費者に選んでもらえる米づくり「能登米」運動を開始
  - エコ栽培と環境への配慮を基本とした安全・安心な米づくりを能登全域で広域展開

**【問題点】**

〈能登棚田米〉

- ①世界農業遺産認定を活用した生産から販売までの一体的な推進体制が確立されていない。
- ②生産量確保・品質向上のための技術指導が必要。
- ③商品価値を実需者に伝えるようなPRや販売活動が必要。
- ④地域内外の住民の協力を得た棚田保全の取組が必要。

〈能登米〉

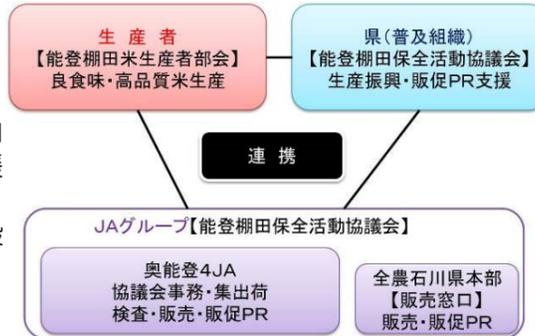
- ①能登全域で取組むためのエコ栽培の統一基準策定が必要。
- ②生産者が主体的にエコ栽培に取組める仕組みが必要。

能登の特徴を活かした水稻のブランド化

**能登棚田米**

**【推進体制の整備】**

- ・4JA、市町、県（普及組織）、全農いしかわで構成する能登棚田保全活動協議会の設立を支援（H24.3）
- ・生産者で組織する生産者部会の設立を支援（H24.8）



**【生産量の確保と取組成果の周知】**

- ・低収量地帯での実証ほの設置や栽培講習会の実施等
- ・生産者に対し能登棚田米通信を刊行（栽培管理やPR・販売活動等の取組状況を情報提供）
- ・全生産者の米の品質・食味分析とフィードバック



**【付加価値を活用した販売促進】**

- ・販売促進グッズやCM等を活用したPR活動を提案
- ・首都圏等、県内外で開催される需要者とのマッチングイベント等での販売促進活動を支援



**【棚田保全に係る活動】**

- ・ボランティアの企画や募集、集落との調整事務を実施
- ・普及指導員も棚田保全活動に参加

※「能登棚田米」の売上げの一部（生産者拠出金60円/俵）は、ボランティアの活動資材の購入や、バス費用等に活用



○取組の拡大

|          | （見込） |     |     |
|----------|------|-----|-----|
|          | H25  | H26 | H27 |
| 生産面積（ha） | 40   | 46  | 65  |
| 生産者数（人）  | 60   | 62  | 73  |
| 取組集落（数）  | 29   | 31  | 35  |
| 出荷量（トン）  | 124  | 141 | 200 |

○化学合成肥料・農薬削減レベルのステップアップ  
3割削減（H24～H25）→5割削減（H26～）

○低収量地帯での指導により収量を確保  
410kg/10a → 459kg～517kg/10a

○高品質の「能登棚田米」を生産（H26）

|         | 1等米   |
|---------|-------|
| 能登棚田米   | 93.9% |
| 管内コシヒカリ | 88.7% |

○卸への販売価格の上昇

○棚田保全活動の実施

|      | H25 | H26 | H27 |
|------|-----|-----|-----|
| 活動回数 | 3回  | 4回  | 6回  |
| 集落数  | 1集落 | 2集落 | 3集落 |

ある集落では、保全活動が縁で、ボランティアにより18年ぶりに祭りが復活し、集落に活気を与えた。



**【生産、棚田保全活動】**

- 点（個人）から面（集落）への生産拡大（H31目標：100ha）
- 共同乾燥施設の活用等新たな集荷体制の構築支援
- 棚田保全活動の拡大

**【流通・販売】**

- 地域の担い手にも魅力ある価格を形成するため、協議会の営業活動を支援
- 新たなニーズを探るため、米卸や企業を巻き込んだ活動支援（産直米、ギフト商品などの新規需要の開拓）
- 地元消費、ふるさと納税等でのファン、応援団づくりのため、ボランティアを活用した取組の継続
- 現在は4JAでの取組であるが、能登7JAのトップブランド米として明確化する

**能登米**

**《中能登農林総合事務所との広域連携活動》**

**【エコ栽培の取組拡大】**

- ・能登全域で実証ほ（111か所）を設置し、これに基づき7JA統一基準のエコ栽培暦（化学肥料・農薬を3割以上削減）を作成
- ・生産者自らエコ栽培の点検ができる「能登米づくりチェックシート」の作成
- ・エコ栽培の技術習得に向けた研修会等の開催
- ・関係機関と連携し、農業者が取組む「生きもの調査」の活動支援



○「能登米」運動に7JAが一体となって取組むことができた

○取組の拡大（能登全域）（H27は見込）

|          | H25 | H26   | H27   |
|----------|-----|-------|-------|
| 取組面積（ha） | 53  | 2,890 | 4,505 |
| 生産者数（人）  | 111 | 2,691 | 4,828 |

※ コシヒカリ作付面積の約5.4%（H27見込み）

○認定機関（FAO）から、世界農業遺産としての価値を高めたとの評価を得た

- 環境保全型農業と売れる米づくりの両立  
→JAによる能登米の直接販売を支援
- 中能登農林総合事務所との広域連携活動を継続・強化